

## I-1 健康寿命の延伸

## (2) 今後の取組 ②

## 3. ICT等を活用した医療

- ・ **遠隔診療**や**AI**、**ゲノム解析**等の革新的技術の活用は、医療の**質や生産性を飛躍的に向上**させる可能性。
- ・ 技術開発に加え、**制度上の評価・ルール整備**等が急務。

- 対面診療と**遠隔診療**を適切に**組み合わせ**ることにより効果的・効率的な医療の提供に資するもの(※)について、**次期診療報酬改定で評価**。

※ 例えば、

- オンライン診療を組み合わせた糖尿病等の生活習慣病患者への効果的な指導・管理
- 血圧・血糖等の遠隔モニタリングを活用した早期の重症化予防等

- **AI開発**の重点6領域(画像診断支援、医薬品開発、手術支援、ゲノム医療、診断・治療支援、介護・認知症)を定めて開発・実用化を促進。

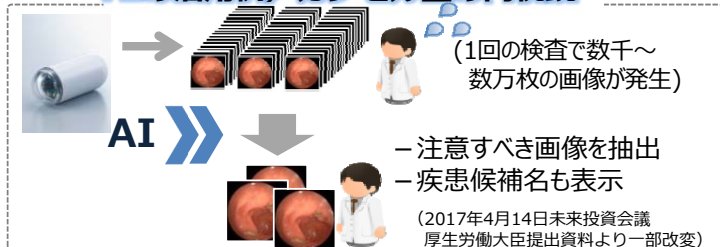
AIを活用した医療機器の質や安全性を確保するための**評価の在り方等のルール整備**。

医師の診療に対するAIを用いた的確な支援による医療の質の向上等について、**次期以降の診療報酬改定等での評価**を目指す。

- がん、難病・希少疾病領域で**ゲノム医療提供体制を整備**。

→ **現場での効果的な取組を普及させ、国民に届ける。**

## AIの活用例/カプセル型の内視鏡



## 4. 自立支援に向けた科学的介護、ロボット等活用

- ・ **自立支援に軸足**を移していく。現場での自立支援の取組を促す**インセンティブ強化**も必要。

- **次期介護報酬改定**で、**効果のある自立支援について評価**。
- 効果が科学的に裏付けられた介護を実現するため、必要なデータを収集・分析するための**データベースを構築**。**効果が裏付けられた介護サービスについて2021年度以降の介護報酬改定で評価**。

→ **現場での自立支援の取組を後押し**。  
効果的なサービスが受けられる事業所を**公表・見える化**し、**国民がより良いサービスを選択**できるように。

- ・ 介護現場の**人材需要**が高まる中、**ロボット・センサーの活用**が負担軽減につながりうる。
- ロボット等活用の**効果実証を行い**、**次期報酬改定で制度上の対応**。
- 真に**現場ニーズ**に合う**ロボット等を開発**。本年夏までに**戦略的な開発の方向性**を取りまとめ、新たな開発支援対象に反映。

## 科学的介護 — 分析のイメージ

